

平成30年度「新学術領域研究（研究領域提案型）」事後評価結果（所見）

領域番号	1501	領域略称名	新興国の政治経済
研究領域名	新興国の政治と経済発展の相互作用パターンの解明		
研究期間	平成25年度～平成29年度		
領域代表者名 (所属等)	園部 哲史（政策研究大学院大学・政策研究科・教授）		
領域代表者 からの報告	<p><u>(1) 研究領域の目的及び意義</u></p> <p>中国、インド、ブラジル、インドネシア等の新興国の台頭に伴い、世界的な富と力の分布は急速に変化している。これら新興国の多くはアジアに位置し、その台頭は地域の秩序と経済的繁栄に強い影響を及ぼしている。新興国の今後を見通すことは容易ではない。まず、これまでの国家形成と経済発展の過程で形成された政治経済システムは、党国家・国家資本主義体制から地方分権的民主制・市場経済に至るまできわめて多様である。また、新興国の経済が中所得国の罠に陥ることなく成長するには人材育成、インフラ整備、セーフティネット整備等の課題があるが、その困難さは国によって異なる。課題に対処する政治のリーダーシップ、政策立案執行能力、政治への国民の信頼（正統性）等もそうである。だが、未だに高度成長を経験していない低所得国や、新興段階を卒業した先進国と比べれば、新興国の間に多くの共通点があることは明らかである。これまで、こうした相違点と共通点を、新興国という括りで体系的に捉えようとする研究は行われてこなかった。本研究領域は、Emerging-economy state（あるいは Emerging state）という枠組みを創り出し、(1) 新興国の政治経済を総合的に理解し、(2) 世界に先駆けて新興国研究を一つの研究領域として開拓することを目的として研究を推進し、新しい研究発表の場を作り、若手研究者を育ててきた。今後、我が国の学問的な発展に大きく寄与するものと期待している。</p>		
	<p><u>(2) 研究成果の概要</u></p> <p>個々の研究者の研究成果に加えて、領域全体の成果として4冊の英文書籍のセット Emerging State and Economy を編纂した。第1巻『新興国の起源、原動力と挑戦』では、経済学、歴史学と政治経済学の専門家が分野を超えた対話を行ない新興国の体系的理解を提示した。第2巻『アジアとアフリカにおける新興国への道』では、世界経済の境界と認識されていた低所得国が経済開発と国家建設を進めるプロセスを、歴史的事例と現在の事例を用いて分析した。第3巻『開発国家建設—新興経済の政治』は、高度経済成長の契機をつかんだ新興国の国家再編の実態について、開発国家論を再評価しつつ分析した。第4巻『岐路に立つ新興国』は、中所得国の罠、社会経済格差、政治的異議申し立て等、新興国が新興したが故に直面するようになった諸課題について分析した。</p> <p>世界に先駆けて新しい研究領域を創造するには、新しい発表の場が必要となる。上記の書籍の作成をきっかけにして世界的な学術出版社 Springer Nature と交渉した結果、新シリーズとして Emerging-Economy State and International Policy Studies が誕生した。また新しい研究領域の発展をリードする若手の研究者が育ったことも重要な成果である。本研究領域には、過去5年間で延べ84名の若手研究者が参画した。領域全体で取り組んだ英文書籍4巻についても、2名の若手研究者を共編者とした。こうした育成の取組の結果、16名が常勤研究者として、2名が非常勤研究職として採用された。さらに、2名の若手研究者が学術賞を受賞した。</p>		

<p>科学研究費補助金審査部会における所見</p>	<p>A- (研究領域の設定目的に照らして、概ね期待どおりの成果があったが、一部に遅れが認められた)</p>
	<p>先進国と発展途上国という二分法では捉えきれない「新興国」が、現代世界の経済や政治に持つ意味は急速に拡大している。こうした現状を前にして、本研究領域は、政治学と経済学を中心とする多数の分野の共同により、新興国の実態について多様な視点からの解明を行ってきた。当初は進捗状況にやや遅れが見られたものの、特に研究期間の後半においては、研究活動の活発化や総括班を中心とした研究組織の連携が進んだ。</p> <p>さらに、採択時や中間評価時の所見において指摘されていた、二つの分野の融合を目指すことや、進捗の芳しくない計画研究へのてこ入れなどについて真摯に対応を行うことにより、多くの研究成果を生み出した。加えて、英文叢書の刊行など、公表成果の質と量は特筆すべき水準に達するものであり、若手研究者育成への尽力も実を結んでいる。</p> <p>しかしながら、新興国の政治と経済について、両者にまたがる理論的基盤を有する新たな学術領域が確実に形成されたというには、やや物足りなさが残った。既存の政治学や経済学において蓄積されてきた新興国についての研究と比較しても、革新的な学術領域を生み出したとまでは言い難い。</p> <p>先進国と新興国との関係は、サプライチェーンに組み込まれた貿易関係だけでなく、資本移動を含めた金融的側面も含め、相互依存がますます強まっている。新興国の概念や対象国も急速に変化を続けており、そうした実態を捉える努力は行われたが、残された課題も多い。</p> <p>今後とも、本研究領域の研究成果が多様な形で発展することを期待したい。</p>